

第4回 『関川流域委員会』 報道結果 (1)

第4回 『関川流域委員会』 報道結果 (2)

保倉川放水路計画地^々と視察

河川整備計画検討の関川流域委

第4回関川流域委員会(委員長=小池俊雄・東京大学大学院教授)がこのほど、上越市内で開かれ、関川河口部や保倉川放水路の計画予定地など5か所の現地視察を行った。

同委員会は、今後20~30年間の関川の河川整備計画を検討するため北陸整備局が設置したもので、今回の委員会では、これまでに関川の「環境と利用」「利水」「災害と防災」「共通事項・その他」の各事項ごとに委員が出した全27項目の現状認識や課題の中で、委員の認識にギャップがある項目を中心に現地視察が行われた。

視察後の意見交換では、委員から保倉川放水路計画について「どこに放水路をつくるか改めて検討する必要がある」「住民の合意を得られる方策を考えていかなければならない」「将来を見据えた上で、この委員会で意見集約できればいい」といった意見が出された。このほか、関川の水質や河川環境に

ついて「水質が悪い原因をつきとめることが大事」「水辺の空間整備がいろいろなところで広くできればいい」などの意見が出された。また、今後の関川河川整備計画の検討に向け、▶水系・空間等の全体の視点▶歴史的な視点▶長期的な視点▶多くの人が良かったと思える視点▶自然および社会の多様性の視点などに立って検討することを確認した。

委員会では今後、2~3年後をメドに同計画の検討を進める計画で、来年2月ころに次回委員会を開催、検討項目や方法など来年度以降の取り組みを決めることとしている。



視察後に行った意見交換

保倉川放水路
計画地など視察

関川流域委員会
関川水系の長期的な河川
整備計画を検討する「関川

流域委員会(委員長・小池俊雄東京大学大学院教授)の第四回会合が二十六日、上越市内で開かれた。同委員会は、河川の特徴や地域文化などに即した整備計画を策定するため、昨年三月に発足。行政関係者や有識者、地域住民の代表ら二十人で構成する。この日は、子供らの自然体験・環境学習の場として整備される「水辺の楽校プロジェクト」の予定地や保倉川放水路の計画地などを視察した後、市内のホテルで意見交換を行った。委員からは「水辺の楽校はいいプロジェクトだが、水質を改善しないと人が集まらないのではないか」「洪水防止のための放水路については、構想の根拠やルート選択の背景などを地元住民らに分かりやすく示して意見を聞くべき」などの意見が出された。次回の会合は来年二月に開く予定で、委員会として来年度以降、何に取り組みべきかを委員一人ひとりが事前に事務局へ文書で提案、それをもとに議論する。